

2019年スジエビ接岸状況蝟集モニタリング

亀甲武志・孝橋賢一

1. 目的

琵琶湖産スジエビの資源状況をモニタリングするため、例年、春から初夏にかけて蝟集の見られる水産試験場の港湾において、簡易なトラップによる親エビの接岸状況のモニタリング調査を実施している。

2. 方法

4月上旬から9月下旬にかけて、水産試験場の船溜まりに蝟集基体としてキンランを入れた箱形トラップを3基設置し、7～10日ごとに取り上げ、エビ類の種類別に個体数をモニタリングした。採集したスジエビは、2-プロパノール（50%）で保存し、腹節側甲の腹肢の形状から雌雄を判別、抱卵の有無を判別するとともに、デジタル画像化して、画像処理ソフト(Image-J)により画像上で頭胸甲長(CL)を測定した。

3. 結果

スジエビの採捕数は、捕れはじめ(4月中旬)および採捕ピーク(6月上～7月上旬)とともに例年とほぼ同じ傾向であった。さらに、採捕数のピークは例年よりも高い水準であった(図1)。抱卵個体は5月中旬に出現し、その後6月にかけて急激に増加した。7月中旬以降は減少したが、8月に再び増加した(図2)。

雄の採捕数は雌と比べると非常に少なかった。4月に比較的多く採捕されたが、その後は少なかった(図2)。

採捕されたスジエビのCLでは、雌は雄よりも大型であった。雌雄ともに7月に入ると小型個体が多く採捕されるようになった。

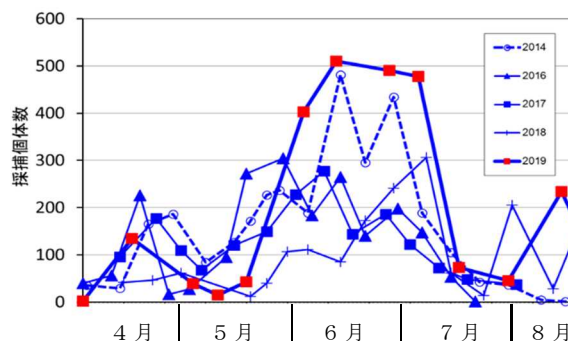


図1 スジエビ採捕個体数の変動

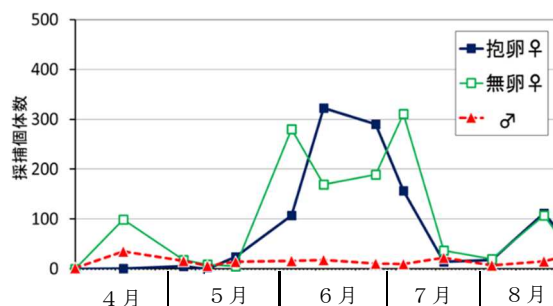


図2 スジエビの抱卵状況および雄の採捕個体数変動